

# 東交大同窓会会報

第 41 号

平成二十九年九月一日

東京交通短期大学同窓会

発行責任者 半沢貞夫  
編集長 岡幸雄  
副編集長 岩井優太

## 明年完成目指し、着々と進む新校舎工事

母校、東京交通短期大学の新校舎新築工事は、平成三十年一月末完成を目指して着々と進められています。延べ面積2817・49㎡、鉄筋コンクリート造の地上9階、地下2階建て、高さ40・64mの建物として、川越街道沿いに姿を現わします。

同窓生の皆さんも、ぜひご来校のうえご覧下さい。



現校舎屋上より

進む工事風景



学校法人豊昭学園 1号館  
東京交通短期大学校舎 新築工事



北野建設株式会社 東京支店

### 鉄道創業一五〇年

同窓会会長

半沢 貞夫



日本の鉄道は、

二〇二二年に創業一五〇年を迎えます。

「国を生かす

ための血管」となるべく誕生した鉄道は、

日本全国を線で結び社会経済の発展の要として大きく寄与してきましたが、他交

通機関の発達、少子高齢化など社会環境の変化に伴いその使命は一部幹線、大都市圏を除き地方においては衰退の途をた

どり、繁栄の歴史の面影は記録に留める方向となりつつあります。

隆盛華々しい創業五〇年には鉄道省が『日本鉄道史』を、一〇〇年には国鉄が『日本国有鉄道百年史』を刊行しています。

節目となる一五〇年を目の前に、国土交通省や関係機関では『鉄道150年史』の編纂作業を進めており、私も編者として関わり経験は在校生にお伝えできるものと思っています。

さて、同窓生諸先輩の皆さんにとっても、現役当時に鉄道が現状となることなど夢想だにしなかった方は多いと思えます。国鉄も分割民営化後30年が過ぎ、在

校生には「国鉄」の言葉さえ死語となりつつあります。今こそ皆さんの貴重な経験を将来に残したいものです。

戦争により荒廃した国土を取り直すべく鉄道の使命が重要となった昭和二十四

年六月、日本国有鉄道が発足、同時に全職員への意識高揚、意思伝達、教育の一環として「国有鉄道」、「国鉄線」、「交通

技術」の三雑誌が部内誌として発刊されます。ご存知の方も多いと思いますが、往事の経営、営業、技術について実務の解説は職員の必携書として、民営化される昭和六十一年まで続きます。

編集を担当していた(財)交通協力会は、JR発足を機に保存していた各誌の合本(年毎一冊にまとめたもの)を数部残し交通問題を研究する機関に贈ることとなり、私は鈴木順一先生(のち名誉教授)に相談のうえ、交通短大を推薦、寄贈いたしました。

来春、新校舎竣工の折には同窓生の図書館利用も懇請し、皆さんが辿られた足跡を歴史として書き残し、自分史あるいは後輩に伝える手段、また日本国有鉄道を理解する貴重な書としてご利用いただければ幸いです。

(第十五回生 元交通新聞社勤務)



平成二十八年事業報告

学長 松岡 弘樹



同窓会の皆様におかれましては、益々ご健勝のことと存じます。

本学は、豊昭学園の高等教育機関として、一九五二年（昭和二十七年）に創立されて以来、伝統的に鉄道業界や交通サービス業界に多くの卒業生を送り出し、関係業界の支援と信頼に支えられて着実に発展を続けてきました。

本学では、建学の精神として「質実剛健」を掲げており、これに基づく教育理念、教育目的・目標を具現化するために、毎年種々の施策を講じておりますが、平成二十八年度は、特に以下の三点を重視して取り組みを行いました。

(一) 第二回の第三者評価について

第三者評価とは、大学が教育研究水準の向上や活性化に努めると共に、その社会的責任を果たしていくため、その理念・目標に照らして自らの教育研究活動等の状況について自己点検・評価を行う制度で、七年周期で一度、全ての短期大学

が点検を行う事が義務づけられているものです。

本学は、平成二十二年に第一回の第三者評価を受けて、(財)短期大学基準協会から「適格」と認定されました。これに引き続き、本学では、カリキュラム、教員・事務体制、財務状況等の点検と改善を図り、平成二十八年度に第二回の第三者評価を受けました。平成二十八年九月に評価員の訪問調査があり、平成二十九年三月十三日付けで「適格」の認定を受けることができました。

「適格」の認定を受けたということは、本学が一定の教育水準を保っているということが客観的に証明されたということを意味します。第三回の第三者評価でも「適格」の評価を受けるべく、平成二十九年度は早速に準備にあたる予定です。

(二) 入学者数の確保について

平成二十八年度入学生は、定員八十名を下回る六十九名となりました。入学者が定員を下回ったのは、私が本学に赴任して以来初めてのケースで、平成二十八年度は、「入学者数の回復のために入試・広報を改革し、もって定員を上回る入学者を確保すること。」に取り組みました。詳しくは、入試委員会委員長の高橋学科

長より報告があると思いますが、入試と広報の合同委員会を複数回開催して、今まで実現してきた施策の見直しを行い、改革を行った結果、平成二十九年入学定員を上回る九十三名を確保することが出来ました。一定の入学生の確保は、学校運営の基盤となるものです。今後も不断の見直しを行い、一定数の「学生の確保」の施策を講じていく所存です。

(三) 新校舎の建設について

前号でもご報告しましたが、現在、平成二十九年度末の竣工を予定して、川越街道沿いの旧一号館の跡地に地上十階建てで短大の新校舎の建設が進められています。これに対応して、平成二十八年度は、各委員会を中心として新校舎を有意義に活用するための検討を行いました。新校舎には、同窓会室も設置しましたので、同窓会員の皆様の交流の場として活用して頂きたいと存じます。

短期大学は、全国的に冬の時代を迎えているといわれていますが、本学も例外ではなく少子化により非常に厳しい局面を迎えております。今後も引き続き短大への同窓会員の皆様の一層のご助力を心よりお願い申し上げます。



皆さんの学び舎でありました現校舎は、昭和四十年に豊昭学園の第七校舎として完成、以降五十年にわたる短大校舎として四〇〇名を超す卒業生を輩出してきました。



平成二十八年年度 学事報告

教授 栗田 善吉



岸先生の後任として、カリキュラム委員長に就任しました栗田と申します。

よろしくお願いいたします。以下、平成二十八年度の学事について簡単に報告いたします。

一、新・退任教職員について

【退任教員について】

平成二十八年度をもって、以下の先生方が退任されました。

(専任教員) 岸康人教授、安達和年教授、井戸大輔准教授

(非常勤教員) 秋山智美講師、原谷直樹講師、山市繁市講師、山口るみ子講師

平田沙織講師、秋山智美講師

「退任された先生方の短大への長年に渡るご尽力に感謝すると共に、今後の益々のご活躍をお祈りさせていただきます。

【新任教員について】

平成二十九年年度より、以下の先生方が新たに赴任されることになりました。

(専任教員) 植村明生准教授、濱雄亮専任講師、天野美穂子専任講師

(非常勤教員) 早川幸治講師(二十八年度後期より)、井戸大輔講師

また、櫻井寛講師が、客員教授に就任致しました。

各先生方の専門分野で培われたご経験を生かされてのご活躍を期待したいと思います。

二、学校行事について

平成二十八年度の学校行事に関しては、前期は、(四月)入学式・一年次および二年次オリエンテーション、第一回体

験入学会、(五月)学外レクリエーション(シチズンプラザにてボウリング大会)

第二、三回体験入学会、(六月)第一回オープンキャンパス、第四回体験入学会、

(七月)第五回体験入学会、第二回オープンキャンパス、(八月)前期定期試験、第

三回オープンキャンパス、第六回体験入学会の各行事を実施しました。

後期は、(九月)東交祭、後期ガイダンス、第七回体験入学会、(十月)第八、九

回体験入学会、交通見学会(銚子電鉄見学)、(十一月)第十回体験入学会、(十二

月)第十一回体験入学会、専門ゼミ発表会、説明会、(二月)第十二回体験入学会、

後期定期試験、(二月)第十三回体験入学会の各行事を実施し、三月に卒業式を挙行いたしました。

例年通り、入学式と卒業式には、同窓会会長の半沢先生にご出席をいただきご

祝辞を賜りました。東交祭には、同窓会ブースを設け、学生・来校者との交流の

場を提供していただきました。同窓会役員の方々の学校行事へのご協力を感謝いたします。

三、時間割について

平成二十九年度の時間割と特別教養講座カリキュラムが別表のように決まりました。特別教養講座につきましては、引

き続き、前同窓会会長の川島一郎先生、同窓会会長の半沢貞夫先生、同窓会副会

長の武田浩一先生の三人の先生に講義をご依頼しております。

例年ご案内いたしておりますが、特別教養講座は公開講座となっております。ご来校して久しぶりに母校での講義をお

聞きになって、学生時代を思い出しただけの如何でしょうか。同窓会会員の皆様の

ご参加をお待ちしております。

の皆様の参加をお待ちしております。

平成二十八年度就職状況及び

平成二十九年年度就職支援

キャリア支援室 栗原 圭二



同窓会の皆さま、本学キャリア支援室でお世話になっております栗原と申

ます。同窓会の皆さまには、就職支援の一環としての出張講義や後輩へのアドバイス等におきまして、大変お世話になっております。

平成二十八年度就職状況についてですが、卒業生八十七名に対して就職希望者七十九名であり、六十七名が就職先を確定し卒業いたしました。進学希望は八名で、うち六名が進学をしております。

平成二十八年度は、JR六社に十二名、東武グループに五名、東京都交通局協力会に五名など鉄道企業就職が三十六名となりました。なかでも小田急電鉄・東京急行電鉄には久しぶりに卒業生を送り出すことができました。今年度以降もこの流れを大事にしていきたいと思

います。また、一年前の卒業生と二年前の卒業生の二名が、卒業後他の企業で働きながら東京都交通局の試験を受験し合格しまし



た、二名ともキャリア支援室に合格の報告に来てくれましたが、改めて本学学生の鉄道に関する熱意を教えてくださいました。

平成二十九年度は、昨年に引き続き、就職活動スタートについては三月、選考開始は六月となっております。しかしながら昨年と比較して実質的な選考試験や内々定の時期が早まったと感じております。七月十五日現在、鉄道企業の内々定者は十五名となっております。今年度は久しぶりに九州旅客鉄道・四国旅客鉄道の内々定者も出ています。選考中の鉄道企業やこれから選考の鉄道企業もまだまだありますので、引き続き受験中または受験を予定している学生も多くおります。その他の交通関連企業（バス会社等）へ内々定者が五名、一般企業の内々定者は四名となっております。

今年度は昨年度に引き続きキャリア系授業をさらに活用させていきます。一年から開講している「文章表現技術」（社会人として必要な文章表現を学ぶ）「ビジネスマナー」（鉄道人としての接客を知る）を受講することにより、鉄道業界が必要とするコミュニケーション力の高い鉄道人を育てていきます。1年後期から二年前期にかけて各鉄道企業に協力い

ただき会社説明会やOBによる就職活動ポイントの話などを実施しています。

同窓会の皆様とは、就職支援の観点からもぜひ後輩に対していろいろな経験談をお話しいただけると幸いに思っています。今年度は九月後半までに大手企業の採用が決まってくると思っていますので、東交祭などにお越しの際はぜひキャリア支援室にお立ち寄り、進路についての疑問質問をお気軽にしてください。また、ぜひ求人があればお声がけいただければ幸いです。

最後に、平成二十八年度の就職・進学状況について簡単に報告させていただきます。平成二十九年三月卒業生は八十七名中、交通関連企業へ四十七名（昨年同時期五十八名）、一般企業二十名（昨年同時期二十二名）、進学六名（昨年同時期六名）という状況でした。（四月三十日現在）

鉄道関連の就職先は次の通りです。

【鉄道関連企業別内定者数】

東日本旅客鉄道	2名 (昨年2名)
西日本旅客鉄道	1名 (昨年3名)
北海道旅客鉄道	2名 (昨年3名)
日本貨物鉄道	1名 (昨年1名)
東京地下鉄	2名 (昨年3名)
東武ステーションサービス	5名 (昨年2名)

小田急電鉄 1名 (昨年無)

東京急行電鉄 2名 (昨年無)

京成電鉄 2名 (昨年1名)

東京高速臨海鉄道 1名 (昨年無)

富士急行 2名 (昨年1名)

伊豆急行 1名 (昨年無)

あいの風とやま鉄道 1名 (昨年1名)

東京都交通局協力会 5名 (昨年7名)

横浜市交通局協力会 1名 (昨年無)

JR千葉鉄道サービス 1名 (昨年無)

JR東日本運輸サービス 5名 (昨年11名)

日本レ스토랑エンタープライズ 2名 (昨年1名)

テス 1名 (昨年1名)

平成二十九年入試報告

入試委員長 高橋 真悟



平成二十九年入学（平成二十八年実施）の入試は、志願者数一〇五名、

合格者数九十六名、入学者数九十三名で、定員の八〇名を上回り、定員を確保することができました。定員割れした

前年度と比べると、志願者は三十一名の増加、入学者は二十四名の増加となりました。皆さまのご協力に感謝申し上げます。

今回、志願者の回復と入学者の回復を実現できた要因は複数考えられますが、大きく五つ挙げられると思います。第一に、AO入試の条件としていた「体験入学会またはオープンキャンパスへの参加義務」をやめ、遠方からの受験や、急に受験を決めた場合に受験しやすくなりました。第二に、体験入学会の回数を年間七回から十四回に増やすと同時に、予約制から予約なしにして、参加しやすいうまく状況を整えました。さらに、オープンキャンパスを含めたイベントの参加が二回目以上の方に対して、志望理由書や小論文の添削指導および面接指導を行うなどの特典をつけました。これらの結果として、平成二十八年度のオープンキャンパスと体験入学会を合わせた参加者数は、学生参加者が三〇九名から三五七名へ、そして参加者合計は四九〇名から五六七名へと増加しました。この増加が、入試の志願者増加に結び付いたと考えられます。

第三に、高校訪問について、従来は一部の高校を年に一度訪問するだけだったのを、同じ高校に複数回訪問して、入学



実績のある高校との関係を強化するよう努めました。さらに第四の要因として、新校舎の建設が挙げられます。平成二十九年年度末に完成予定の新校舎の存在をイベントやホームページで宣伝することができた点は、広報戦略上、プラス効果になったと思います。そして第五の要因としては、平成二十七年年度の就職実績が挙げられます。平成二十七年年度は鉄道・交通関連企業の就職者合計が五十八名と、前年度の四十一名を大幅に上回りました。鉄道会社志望の学生が圧倒的に多い本学としては、このような実績は大きな強みといえます。以上が、志願者の回復と入学者の回復を実現できた要因だと考えます。これらは、入試委員会と広報委員会が合同の委員会を開催して、対策を講じてきた結果だと思えます。今後も、必要に応じてこのような連携をしていく予定です。

現在、日本の短期大学が置かれている状況を確認すると、短期大学の学校数および学生数は、平成五年から平成八年をピークとして減少し続けています。そして、十八歳人口が減少している傾向を反映して、全国の短期大学で定員割れが深刻化しています。日本私立学校振興・共済事業団の調べによると、平成二十八年

度の短期大学における定員割れは二〇八校で、短期大学全体（三二一校）に占める割合は六六・九%となっています。十八歳人口が急激に減少する「二〇一八年問題」も間近に迫っているなか、短期大学の入学者確保は非常に厳しい状況に置かれているといえます。

本学は今年度末の新校舎完成を控え、平成二十九年七月現在、体験入学会とオープンキャンパスの参加者合計が昨年度の約一・二倍に増加しております。この増加を入試の志願者に結びつけ、来年度も確実に定員を確保していきたいと考えております。同窓会のみなさまにおかれましても、本学に興味のある方がいらつしやいましたら、ぜひ体験入学会やオープンキャンパスへのご参加をすすめていただけると幸いです。皆さまのご協力をよろしくお願い申し上げます。



**平成28年度 東京交通短期大学同窓会 総会開催**

平成二十八年九月十七日（土）、二十八年年度総会を学内に於いて会員十五名の出席で開催しました。

会には、松岡学長、高橋学科長にもご列席を賜わり、二十八年度会員報告、事業報告、収支報告が行われ、了承されました。

また、総会終了後場所を池袋西口の地球飯店に移し会員懇親会を開催、出席者が現況などを紹介、懇親を深めました。

二十九年年度総会は、現校舎最後の総会となります。多くの同窓生のご参加をお待ちしております。



総会（学長の学事報告）



懇親会参加者



懇親会風景



## 平成 29 (2017) 年度 特別教養講座

開講日	講演者	テーマ
2017年4月15日	大坂 直樹 株式会社東洋経済新報社記者	鉄道を通じて経済、社会を学ぶ
2017年4月22日	前田 忍 大井川鉄道株式会社代表取締役	大井川鉄道の企業概要と集客戦略について
2017年4月29日	前田 悦子 駿河台大学経済経営学部准教授	20歳からの年金制度
2017年5月6日	荻原 俊夫 元東急電鉄株式会社営業本部 営業推進部主査	鉄道員としての毎日
2017年5月13日	岩武 光宏 近現代史研究者	近現代史を学ぶ ～戦争の時代と鉄道～
2017年5月20日	亀山 直人 日本貨物鉄道株式会社総務部 副部長	J R 貨物の現状と課題、取組み
2017年5月27日	鹿住 良人 株式会社かすみ交通代表取締役	タクシー経営の現状と問題 知られざるタクシー経営
2017年6月3日	齋藤 順治 株式会社 J R 東日本ステーション サービス代表取締役社長	「発足 30 年を迎える J R 東日本グループ」
2017年6月10日	井上 治 拓殖大学政経学部長	インドネシアの鉄道事情
2017年6月17日	木原 庄二 東日本旅客鉄道株式会社 松戸駅駅長	「顧客満足度 鉄道業界 NO.1 をめざす」 ための駅の取り組み
2017年6月24日	佐藤 美知男 公益財団法人交通協力会 鉄道史資料調査センター研究員	3号機関車物語 一校内保存機関車の昔語りー
2017年7月1日	武田 浩一 本学同窓会副会長	しくじってはいけない鉄道員の業務
2017年7月8日	成瀬 敏郎 東京情報大学総合情報学部教授	公共交通機関におけるリスク・マネジメントと情報 (ICT)
2017年7月15日	広田 健助 株式会社全日警人事本部 人材採用部長	J R 東海の鉄道警備と全日警
2017年7月22日	平田 一彦 株式会社東武カードビジネス 常勤監査役	鉄道事業を巡る経営環境の変化について
2017年8月8日	櫻井 寛 株式会社エクスプレス 代表取締役社長	世界最長の鉄道トンネル 青函トンネルとゴッタルドトンネル
2017年8月26日	渡部 史絵 鉄道ジャーナリスト	「東京の鉄道～近い将来について～」
2017年9月30日	尾崎 正明 東京急行電鉄株式会社 内部統制室専任主幹	「鉄道運転士に求められるもの」
2017年10月7日	金ピカ先生 教育評論家・タレント	日本人でも英語を喋れる簡単教育法
2017年10月14日	花上 嘉成 一般財団法人東武博物館理事・ 名誉館長	これからの鉄道について
2017年10月21日	大島 功 株式会社ジェイアール東日本 都市開発総務部次長	J R 東日本の現状と企業が求める社会人について
2017年10月28日	岡本 久 本学元学科長・本学名誉教授	これからの交通を考えてみよう
2017年11月4日	半沢 貞夫 本学同窓会会長・元交通新聞社 出版編集部長	『新幹線 50 年史』を読む
2017年11月11日	川島 一郎 東日本鉄道 O B 会 東京地方本部専務理事	「元気な J R 東日本グループ」
2017年11月18日	山本 俊之 西武鉄道株式会社 新所沢乗務所 所長	「西武鉄道におけるイノベーション (革新・変革) について」
2017年11月25日	平柳 聡 造景師 (情景モデラー)	生活に密着した鉄道風景の魅力
2017年12月2日	田中 宏司 本学元学長・本学名誉教授	「コンプライアンス経営と C S R 経営」
2017年12月9日	吉田 一宏 東武鉄道株式会社資産管理部課長	鉄道業における資産活用について
2017年12月16日	石上 七輔 松蔭大学 コミュニケーション文化学部長 ・教育開発センター長	古代の交通と信仰
2018年1月13日	石村 誠人 駅デザインとパブリックアート 研究会代表	これからの駅舎の在り方を通じて学ぶべきこと
2018年1月20日	米山 淳一 公益社団法人 横浜歴史資産調査会常務理事	鉄道遺産を生かしたまちづくりと地域活性化

(敬称略)



(1 年次)				平成 29 (2017) 年度時間割				(2 年次)					
1 時限	2 時限	3 時限	4 時限		1 時限	2 時限	3 時限	4 時限		1 時限	2 時限	3 時限	4 時限
13:10 ~ 14:40	14:50 ~ 16:20	16:30 ~ 18:00	18:10 ~ 19:40		13:10 ~ 14:40	14:50 ~ 16:20	16:30 ~ 18:00	18:10 ~ 19:40		13:10 ~ 14:40	14:50 ~ 16:20	16:30 ~ 18:00	18:10 ~ 19:40
鉄道基礎 (中島) 101	基礎ゼミ I (藤井) 302	実務基礎 能力論 I A/B (植村) 201	交通概論 A/B (栗田) 301	月			経営組織論 (前) (平野) 101	コンピュータ 実習 I A/B (植村) 202					
	基礎ゼミ II (平野) 301	実務基礎 能力論 II A/B (藤井) 301					航空論(後) (栗田)101	経営法学(前) (白土)101					
	基礎ゼミ III (天野) 201	実務基礎 能力論 III A/B (田邊) 202						経営戦略論 (後) (平野)101					
	基礎ゼミ IV (濱) 101												
	基礎ゼミ V (田邊) 202												
政治経済 (前) (福山) 301	観光関係法規 ① (前集) (手塚) 301	観光地理 (前) (有馬) 301	統計学 A/B (天野) 301	火	中国語 A/B (山口) 201	コンピュータ 実習 II A/B (天野) 202	鉄道運転論 (前) (藤原) 201						
哲学 A/B (篠原) 101	現代社会論 (後) (福山) 301	環境科学概論 A/B (中村) 101	保健体育理論 A/B (藤城) 101					観光事業論 (後) (太田) 201					
			体育実技 A/B (早川) 体育館										
経済学 A/B (高橋) 301	文章表現技術 A/B (新島) 301	法学 A/B (松岡) 301	心理学 A/B (兼高) 301	水	海運論 (後) (栗田) 201	交通経済学 (前) 交通需要論 (後) (栗田) 201	交通英語 A/B (大槻) 201	交通判例分析 ゼミ (松岡)201					
マーケティング 論 (前) (井戸) 201		基礎英語 (町田) 202	検定英語 (小池)202						都市・地域交 通論ゼミ (栗田) 101				
									経済政策論 ゼミ (高橋) 302				
ビジネス マナー(前) (夏城)301	キャリア デザイン (前) (栗原) 301	自己表現法 (前) (田邊) 301	観光学概論 A/B (白土) 301	木	コンピュータ 実習 III A/B (植村) 202	キャリア実践 (前) (田邊) 201	交通史 (前) 鉄道史 (後) (濱) 201	交通技術論 (前) 鉄道システム 論 (後) (前橋) 201					
企業研究 (後集) ① (田邊) 301	企業研究 (後集) ② (田邊) 301	コンピュータ 基礎 (後) (植村) 301					世界の 鉄道研究 (後) (櫻井) 201						
旅行実務論 (前) (手塚) 301	観光関係法規 ② (前集) (手塚) 301	経営学 A/B (亀川) 301		金	キャリア 情報論 (前) (栗原) 201	交通経営論 ゼミ (亀川) 302	交通政策論 (前) (藤井)201	交通論ゼミ (藤井) 101					
キャリア 形成論 (後) (栗原) 301	交通事業論 (後) (藤井)301	自然科学概論 A/B (佐藤) 101				観光 プランニング 実践 (後) (手塚) 201	物的流通論 (前) (古井) 201	経済学史 (後) (高橋) 201					
特別教養講座 A/B (高橋) 301	情報システム 論(前) (植村)201	歴史学 A/B (濱) 201	補講	土	ビジネス倫理 (前) (平野) 101	自動車交通論 (前) ホスピタリ ティ論(後) (湯田)101		補講					
	会計の基礎 (後) (大田)201					交通環境論 (後) (大田) 101							



平成二十八年度  
「箱根登山鉄道貸切列車の旅」開催報告

幹事 貸切列車実行委員長

湯川 信久



同窓会各位に  
於かれましては  
益々御健勝の事  
とお慶び申し上  
げます。

また、平素は同窓会活動にご支援賜り  
まして誠に有難うございます。

平成二十八年十二月十八日(日)、同  
窓会主催のイベント「箱根登山鉄道貸切  
列車の旅」を開催いたしました。貸切列  
車は、有志による「富士急」そして二回  
目となった「伊豆急行」に続くイベント  
となりました。

前回の伊豆急行貸切列車については車  
輛貸切のうえ、特別ダイヤにて運行して  
頂いたのですが、今回の箱根登山鉄道貸  
切列車については通常の営業列車三輛編  
成のうち、一車輛を貸し切る形で実施い  
たしました。乗車する列車は箱根登山鉄  
道3000系車輛「アレグラ号」です。

今回は同窓会会員及びそのご家族のほ  
かに、学校から松岡学長ならびに講師の  
前橋先生や同窓会顧問の川島さんにもご

参加いただき、総勢二十八名での実施と  
なりました。

十二時五十一分、箱根湯本駅を軽快な  
警笛とともに我々を乗せた「アレグラ号」  
は八〇%の急坂を登り始めました。車内  
は和気藹々とした雰囲気に参加者の自己  
紹介から始まり、沿線の案内などを含め  
時速約二〇キロで箱根路を列車が走りま  
す。

皆様ご存知のように箱根登山鉄道は出  
山の鉄橋・スイッチバック・半径三〇メ  
ートルの急カーブなど鉄道好きにはたま  
らない要素が揃っております。紅葉が終  
わった季節ではありましたが、葉が落ち  
たことと空気が澄んでいることから箱根  
連山の景観が車内から一望することがで  
きました。

強羅駅十三時三十四分に到着。前半戦  
終了です。四分後の折り返し、強羅発十  
三時三十八分発として箱根湯本駅に戻り  
ます。

すでに往路だけでボルテージが上がっ  
ている参加者一同、復路の列車内ではさ  
らに気分が高揚し、楽しいひと時を過ご  
すことが出来ました。

箱根湯本駅十四時二十分に到着。着後、  
箱根湯本駅前にて参加者全員で記念撮影  
を行いました。わずかな時間、そしてわ

ずかな距離ではありましたが、概ね無事  
にイベントを終了することが出来ました。  
今回ご参加頂きました皆様に本報告の場  
をお借りいたしました心より御礼申し上  
げます。  
どうもありがとうございました。

なお、貸切列車イベントの開催前日に  
は、武田副会長の報告の通り、同窓会忘  
年会を行い会員の懇親を深めることがで  
きました。  
(第41回生 日本私立学校振興・共済事  
業団 箱根宿泊所「対岳荘」勤務)



車内風景



「箱根登山鉄道貸切電車」全員集合



箱根登山鉄道・箱根湯本駅



〔会員解放区〕

同窓会の忘年会を箱根で開催

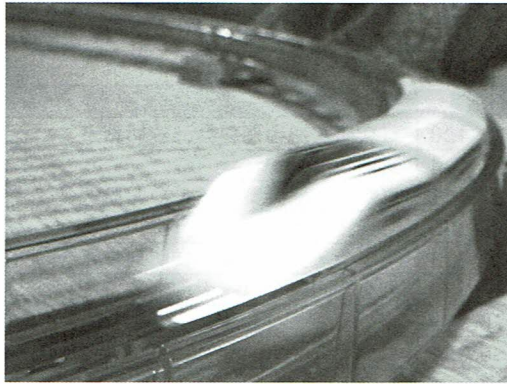
副会長 武田 浩一



箱根登山鉄道  
貸切列車のイベ  
ントを翌日に控  
えた十二月十七  
日（土）、同窓

会幹事である第四十一回生の湯川信久氏  
が勤務する箱根「対岳荘」で忘年会を開  
催しました。

同窓会生の家族を含め十二名が参加。  
夕食の懇親会では料理とお酒で、大いに  
盛り上がりました。そのあと宿泊の参加  
者は温泉や飲み直すなり懇親を深め、ま



時速600キロ、リニア駆動「L0系」

た湯川氏が所有されているプラレールの  
リニア駆動L0系を部屋に広げ楽ししま  
した。スケール時速六〇〇キロを「速い  
なく」など、いい大人達がエンドレスレ  
ールを眺めながら酌を交わしました。こ  
ちらの逸品、今度の東交祭の同窓会コー  
ナーで展示しようか？と酔いどれで話し  
合いました。

貸切列車当日の朝は、宿泊先の対岳荘  
からほど近い線路傍で、箱根登山鉄道の  
写真撮影を行いました。撮影のあと貸切  
列車参加者は、集合時間までかなり時間  
に余裕があったので、普段は降りる事の  
無いであろう箱根湯本駅一つ手前の塔ノ  
沢駅で下車、祀られている弁天様にイベ  
ントの成功とその他諸々の願いを祈念し、  
集合場所の箱根湯本駅に向かいました。

（第41回生 東京急行電鉄勤務）

地元で幼い頃からの夢を実現

幹事 第六十一回生 及川 徹也



交通短大を卒  
業してから三年  
半が経ちました。  
二〇一四年四  
月に横浜市交通

局に入局し、上大岡駅で一年間駅員を経  
験した後、運転士登用試験に合格し十か  
月の学科教習・技能教習、そして修了試  
験を経て二〇一六年二月から横浜市営地  
下鉄ブルーラインの運転士をしています。

こうして地元で就職し電車の運転士に  
なるという夢を実現したわけですが、短  
大に入学した頃には全く予想していませ  
んでしたが、このような結果になったの  
も数多くの偶然があったからだと思います。  
す。今回は自分が今まで経験してきたこ  
とをお話したいと思います。

まず横浜市交通局地下鉄運輸職員採用  
試験を受験したきっかけですが、二年次  
の前期試験期間のある日、たまたまキャ  
リア閲覧室で求人票を見ていた時、通り  
がかったキャリア支援の先生に「横浜に  
住んでいるなら受けてみなよ」と言われ  
エントリーシートに記入・企業研究など  
を始めたことです。

またある日、アルバイトで一緒に働い  
ていた人に「就活どうなの？」と聞かれ、  
横浜市交通局を受験することを話すと、  
偶然にもその人の旦那さんが市営バスの  
運転手をしているということ、いろいろ  
なることを教えてもらい、すごく参考に  
なったことも偶然の一つです。その後三  
回の試験を無事通過することができ横浜

市交通局に入局することができました。

また、運転士登用試験を受験しようと  
思ったのも偶然の出会いがきっかけです。

三年前、交通短大同窓会総会に出席、  
初対面の方ばかりでも緊張したので  
すが、そこでいろいろな先輩とお話しす  
る機会を得ました。その中で「チャンス  
があったら、挑戦したほうがいいよ」と  
いうアドバイスを頂きました。その後、  
運転士登用試験に無事合格し、十か月の  
研修を経て現在に至っています。

これから先、定年まで三十年以上働い  
ていくことになりませんが、その中で運転  
士として仕事をできる期間は半分もない  
と思います。運転士を引退した後のこと  
を考えると、ちよつとだけ不安ですし、  
そのあと希望通りの部署に配置になる可  
能性は低いと思います。ですが、自分の  
能力を最大限発揮できるように、日々の  
乗務、専門知識の学習など、常に自分の  
ベストを尽くし、楽しく仕事していける  
よう頑張っていきたいと思っています。  
（横浜市交通局 上永谷乗務管理所 勤  
務）



会 計 報 告 書 (平成 28 年度) 平成 29 年 4 月 1 日  
 平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日 東京交通短期大学 同窓会

収入の部			支出の部		
項目	金額(円)	適要	項目	金額(円)	適要
繰越金	727,932		集会費	175,420	東交祭・総会懇親会、貸切列車
会費	425,000	5,000 円 × 85 名	事務費	1,144	同窓会会長賞賞状
臨時会費	108,500	東交祭・総会懇親会・貸切列車	通信費	433,411	東交祭・総会案内状・会報発送費
寄付金	26,580	学長、学科長、非役員OB	渉外費	29,260	会長賞記念品
雑収入	8	利息	会議費	65,578	幹事会・会報編集・貸切列車打合せ
			雑費	6,328	東交祭同窓会コーナー備品
			繰越金	576,879	
収入計	1,288,020		支出計	1,288,020	

この報告書は検討の結果、その収支は正当かつ妥当であることを認めます。

平成 29 年 4 月 1 日 会計監査 堀 丈夫<sup>㊞</sup>、村越 輝夫<sup>㊞</sup>

平成二十九年度総会ならびに東交祭・同窓会コーナーの設置について

平成二十九年九月十六(土)十六時半より学校において「平成二十九年度同窓会総会」を開催いたします。なお、十六日(土)と十七日(日)の両日に「東交祭」が開催されます。「同窓会コーナー」も設置いたします。沢山の方のご参加をお待ちします。

登録有形文化財 「天竜浜名湖鉄道貸切列車の旅」(予定)

平成二十九年十月二十八日(土)、同窓生で第五十回生の青天目篤さんが勤務する「天竜浜名湖鉄道貸切列車の旅」の企画を予定しています。今回は、登録有形文化財の天竜二俣駅や転車台、車庫などを見学、車内では鉄道遺産の話など予定しています。企画内容につきましては、ホームページに決定次第詳細を掲載いたします。参加ご希望者はご確認の上お申し込みください。



お知らせ

- 一、会報バックナンバー  
 インターネットより、<http://www.hoshu.ac.jp/toukou/OB/index.html> にアクセスしていただき、会報ボタンをクリックすると、第二十二号から第三十二号まで閲覧できます。
- 二、同窓会事務局運営スタッフ募集  
 同窓会で行う行事や同窓会報およびホームページ作成をお手伝いいただける方を随時募集しておりますので、同窓会事務局宛てに書面もしくは電子メールでお問い合わせください。

三、原稿執筆案内

- ①題 材 自由
- ②執筆要領  
 ・文章の場合、市販の原稿用紙か電子データの入ったメディアを郵送、または電子メールにて、八〇〇字程度でお願いします。  
 ・写真/イラスト/カットの場合、そのまま版下とします。電子データでも結構です。いずれもタイトル、卒回、氏名、勤務先を明記し、写真も添付してください。
- ③原稿締切 毎年一月末日
- ④送付先 〒一七〇〇〇一一

東京都豊島区池袋本町二一九一  
 東京交通短期大学 同窓会事務局宛  
 E-mail: toukouOB@gmail.com

編集後記

▼同窓会の運営・活動は、主に現役の皆さんのご協力によっていますが、特に鉄道関係の方は泊まり

勤務など不規則な面もあり、連絡にも気を使う場合があります。イベントの開催も一部の現役の皆さんに委ねることが多く、新校舎完成を期に、広く同窓生のご協力を得られる体制に見直す絶好の機会といえます。(H)